

2023年度

東京大学大学院

人文社会系研究科

東アジア思想文化専門分野

大学院冬季入試説明会

※この説明会は大学院受験希望者を主たる対象としますが、
学士入学希望者の参加も前提として学部教育に関する説明
も行います。

日時：7月16日(土) 12:00～13:50

形式：ハイブリッド(対面・zoomの併用)

会場：法文1号館2階212教室

zoom：<https://is.gd/BmqIjZ>

ID：861 2953 2355

pass：024766

※当日参加可(事前申込不要)

※連絡先：[chph\[at\]l.u-tokyo.ac.jp](mailto:chph[at]l.u-tokyo.ac.jp) (平澤)

[at]を@に変えてお送りください



東アジア思想文化専門分野では、諸子百家・儒教・道教・仏教の思想や、伝統的な医学・天文・暦法・音楽・出版等々の文化・技術について、幅広く研究しています。

単に「古典籍の中にこんな記述が残っていました」「当時こんな出来事がありました」という発見に留まらず、その記述や出来事の背景に如何なる思想史的な文脈が存在したのか、その文脈下で当時の人々がどのように考えて生み出したものだったのか。そういったことまで含めて、分析・考察を行います。

いまの我々が常識として持っている価値観や考え方、自然科学的知見といったものは、数えきれないほど多くの古人が思索し、議論を行い、時には大転換を経ながら徐々に積み上げて行った結果として形成されています。つまり、我々が当たり前だと思っていることの多くは、決して古代から一貫して共有されていた普遍的な常識ではありません。

そのため、古人の言説・発明を我々の尺度で測っても、見当違いな切り抜きになってしまいます。必ずその当時の文脈を踏まえ、彼らの思考を可能な限り追いかけて、研究しなければなりません。

そして、このようにして古人の考えを少しずつ明らかにして行くことは、同時に、現在の我々が持っている思想・文化の形成過程を少しずつ明らかにして行くことに他なりません。

東アジア思想文化という学術は、決して骨董品として古典を愛玩したり、トリビア的な豆知識を発掘したりすることが目的ではありません。研究を通じて我々の思想・文化の形成過程を少しずつ明らかにし、それによって改めて我々自身を知り、未来へ進むための学問なのです。

○教員紹介

・横手 裕 教授

研究分野：道教史、中国三教交渉史、中国医学

主要著作：『中国道教の展開』、山川出版社、2008年。

『道教の歴史』、山川出版社、2015年。

・陳 捷 教授

研究分野：中国書籍史、東アジア書籍交流史・文化交流史

主要著作：『明治前期日中学术交流の研究：清国駐日公使館の文化活動』、汲古書院、2003年。

『医学・科学・博物——東アジア古典籍の世界』
(編著)、勉成出版、2020年。

・小島 毅 教授

研究分野：儒教史、東アジア王権論

主要著作：『中国近世における礼の言説』 東京大学出版会、
1996年。

『儒教が支えた明治維新』、晶文社、2017年。



・中島 隆博 教授

研究分野：中国哲学、比較哲学

主要著作：『莊子——鶏となって時を告げよ』、岩波書店、
2009年。

『中国哲学史——諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで』、中公新書、2022年。

・石井 剛 教授

研究分野：近代中国の思想と哲学

主要著作：『敢問“天籟“』、UTCP、2013年。

『戴震と中国近代哲学——漢学から哲学へ』、知泉書館、2014年。

・高山 大毅 准教授

研究分野：日本思想史

主要著作：『近世日本の「礼楽」と「修辞」——荻生徂徠以後の「接人」の制度構想』、東京大学出版会、2016年。

『徂徠集 序類』（共訳）、平凡社、2016-2017年。

・田中 有紀 准教授

研究分野：中国科学史、中国音楽史

主要著作：『中国の音楽論と平均律——儒教における楽の思想』、風響社、2014年。

『中国の音楽思想：朱載堉と十二平均律』、東京大学出版会、2018年

○博士論文題目 (2012～2021年)

- ・『清末における士大夫像の模索——郭嵩燾の修己治人を中心に』
- ・『漢代経学に於ける五行説の変遷』
- ・『明治時代の知識人と足尾鉍毒事件——「近代性」問題への思想史的接近』
- ・『六朝隋唐期における道教思想の整合化と三教交渉』
- ・『中国と日本における易经学の近代的変容』
- ・『東アジアにおける女仙信仰と女仙伝——その起源と展開、伝播』
- ・『大学と漢学 ——東京帝国大学とその前身校における漢学および「支那哲学」の展開について——』
- ・『明清時代におけるカトリック漢訳教理書の研究』

等

